

刊 行 記 念 ト ー ク イ ベ ン ト

風呂と愛国

——「清潔な国民」はいかに生まれたか

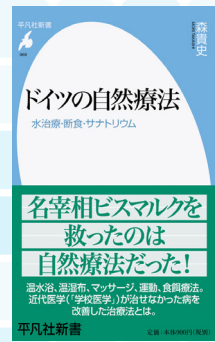
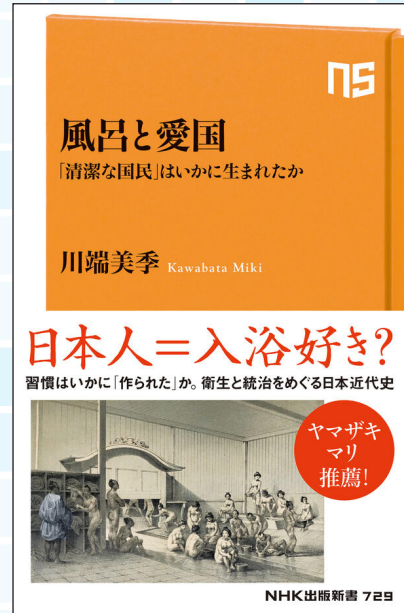
(NHK 出版 | 2024 年 10 月刊行 税込 ¥1,078)

川端美季先生 × 森貴史先生

立命館大学生存学研究所
特別招聘准教授

関西大学文学部
(文化共生学専修) 教授

日本人らしさとしても語られがちな「毎日風呂に入るのが当たり前」という意識。私たちが無意識に内面化しているこの感覚は、いったいどこからきたのか？ 西洋人が見た江戸の庶民の入浴習慣から「日本人は風呂好き」言説のルーツ、風呂を通して見えてくる、衛生と統治をめぐる知られざる日本近代史！ 森貴史先生の『ドイツの自然療法』(平凡社新書)～水治療法、菜食や断食といった食餌療法、日光浴、スウェーデン体操など、19世紀以降に広まったドイツの自然療法～も一緒に取り上げてお話しいたします。



12.16 月

16:30～17:30

※延長の場合あり(最大 18:00) / 途中入退出可

会場：ブックセンターふらっと

【組合員企画】参加無料・申込不要 \ 当日会場へお越しください /



川端 美季 (かわばた みき)

1980 年神奈川県生まれ。立命館大学生存学研究所特別招聘准教授。専門は公衆衛生史。立命館大学先端総合学術研究科修了。著書に『近代日本の公衆浴場運動』(法政大学出版局)、共編著に『障害学国際セミナー 2012—日本と韓国における障害と病をめぐる議論』(生活書院)がある。



森 貴史 (もり たかし)

1970 年、大阪府生まれ。Dr. phil. (ベルリン・フンボルト大学)。現在、関西大学文学部 (文化共生学専修) 教授。著書に、『「現場」のアイドル文化論—大学教授、ハロプロアイドルに逢いにゆく。』(関西大学出版局)、『裸のヘッセ—ドイツ生活改革運動と芸術家たち』(法政大学出版局)、『踊る裸体生活—ドイツ健康身体論とナチスの文化史』(勉誠出版)、監訳にミヒャエル・H. カーター『SS 先史遺産研究所アーネンエルベ—ナチスのアーリア帝国構想と狂気の学術』(ヒカルランド) などがある。



協力：立命館大学生存学研究所